

リリースノート



# Trimble Access™ ソフトウェア

バージョン 2017.00  
改訂 B  
2017 年 3 月

## 法的情報

Trimble Inc.

[www.trimble.com](http://www.trimble.com)

## 著作権と商標

© 2009-2017 年, Trimble Navigation Limited. 著作権所有。

Trimble、地球儀と三角形のロゴ、Autolock、CenterPoint、 FOCUS、 Geodimeter、 GPS Pathfinder、 GPS Total Station、 OmniSTAR、 RealWorks、 Spectra Precision、 Terramodel、 Tracklight、 TSC2、 およびxFillは、米国登録商標特許庁に、そしてその他の国々で登録されたTrimble Inc. の登録商標です。

Access、 FastStatic、 FineLockGX、 RoadLink、 TerraFlex、 Trimble Business Center、 Trimble Geomatics Office、 Trimble Link、 Trimble RTX Trimble Survey Controller、 Trimble Total Control、 TRIMMARK、 VISION、 VRS、 VRS Now、 VXおよびZephyrは、 Trimble Inc. の商標です。

Microsoft、 ActiveSync 、 Windows、 Windows Mobile、 Windows Vistaは、米国またはその他の国、あるいはその両方におけるMicrosoft Corporation の登録商標または商標です。

Bluetooth という言葉のマークやロゴは、Bluetooth SIG, Inc. が所有しており、Trimble Inc. は許可を受けてそれを使用しています。

Wi-FiはWi-Fi Allianceの登録商標です。

その他の商標はそれぞれの所有者に帰属します。

この文書の目的は、あくまで情報を提供することにあります。 Trimbleは、本書内で明示的、黙示的かを問わず、何の保証も行っていない。

# 目次

一般測量 .....	4
パイプライン .....	9
道路 .....	10
AccessSync .....	11
インストール情報 .....	13
ソフトウェアおよびハードウェア要件 .....	15

このリリースノートには、Trimble® Access™ソフトウェア バージョン 2017.00についての情報が掲載されています。

## 一般測量

本節では、特徴、改善点、解決された問題などについて説明します。これらは他のTrimble Accessアプリケーションにも適用されます。

## サポートされている新しいハードウェア

### Spectra Precision FOCUS 35またはFOCUS 30トータルステーションに対応

Trimble Accessソフトウェアが、Spectra Precision® FOCUS® 35とFOCUS 30トータルステーションに対応するようになりました。

### SP60とSP80 GNSS受信機

Trimble Accessソフトウェアが、Spectra Precision SP60とSP80 GNSS受信機に対応するようになりました。

メモ - SP60とSP80受信機は、Trimble GNSS受信機にあるすべての機能には対応していません。さらに詳しい情報につきましては、サポート資料Trimble AccessでのSP60とSP80受信機のサポートをご参照ください。

### TSC2コントローラがサポートされなくなりました

Trimble Accessのバージョン2017.00以上は、コントローラのソフトウェア保証ステータスを問わず、Trimble TSC2コントローラにインストールできません。昨年、TSC2プラットフォームは、Trimble Access最近のバージョンにはスペック不足であることが分かりました。Trimble Accessの開発を継続するため、新しいバージョンのTrimble AccessのTSC2コントローラへのインストールをサポートすることができなくなりました。

TSC2コントローラは、Trimble Accessのバージョン2016.12は継続して実行することが可能です。

## 新しい特長と機能の強化

### ジョブファイルを別の場所から、より簡単にコピーする

ジョブ画面に新しく追加されたここからジョブファイルをコピーオプションを使用すると、外部ドライブなどの場所からTrimble Accessにジョブをコピーできます。測量中に収集されたファイル（画像ファイルやスキャンファイルなど）やプロジェクトファイル（特徴ライブラリやリンクファイル）など、ジョブに関連するファイルも同時にコピーできます。

この機能は、Trimble Accessバージョン2016.10で追加されたここにジョブファイルをコピー機能を補完するものです。ここへジョブファイルをコピー、およびここからジョブファイルをコピー機能を使用すると、USBスティックなどの外付けドライブを使用してフォルダから別のフォルダへ、またはコントローラから別のコントローラへ、ジョブと関連ファイルを簡単にコピーすることができます。ここからジョブファイルをコピーを使用すると、ジョブはコントローラ上の現在の<username>フォルダにコピーされます。

さらに詳しい情報につきましては、[一般測量ヘルプ](#)の別の場所からジョブファイルをコピーするにはの項目をご参照ください。

## ジョブファイルを別の場所へコピーする機能の向上

ここへジョブファイルをコピーオプション（ジョブ画面）では、ジョブに関連するプロジェクトファイルのコピーにも対応するようになりました。下記のプロジェクトファイルタイプをコピーするには、該当するチェックボックスを選択します：

- 座標系ファイル
- アクティブ・マップ・ファイル
- 特徴ライブラリファイル
- リンクされているファイル
- メディアファイル

このほか、軽微なワークフロー改善がなされました。

詳しくは、[一般測量ヘルプ](#)内のジョブファイルを別の場所へコピーするにはの項目をご参照ください。

## 長いジョブ名に対応

ジョブ名に使用できる制限文字数が16文字から32文字に増えました。

## ジョブまたはフォルダを選択する際のキーボードショートカット

ジョブを開く際、コントローラキーパッドでジョブまたはフォルダ名の最初の文字を押し、その文字で始まる最初のジョブまたはフォルダを選択できるようになりました。同じ文字から始まる項目が複数ある場合は、その文字を押し毎に項目が順次選択されます。

## 特徴ライブラリからコードを選択するときの改善点

コードを選択する際、一致ソフトキーをタップして、特徴ライブラリ内でコードまたは説明フィールドを問わず、入力したストリングと一致するアイテムを検索できるようになりました。旧バージョンでは、「C」（コード）または「D」（説明）フィールドを使用して文字を検索すると、入力された文字列がコードや説明の頭の部分に含まれる項目のみが表示されていました。

さらに詳しい情報につきましては [一般測量ヘルプ](#)の測定コードの項目をご参照ください。

## 線形まで杭打ちを行う

線形に対して自分の位置を計測することができるようになりました。線形を杭打ちするときは、[杭打ちオプション](#)、[線形へ](#)を選択して、現在位置から選択した線形までのステーション、オフセットおよび鉛直距離の値を確認することができます。

## 線形杭打ちを終了する際の動作の設定オプション

杭打ち線形を終了する際の一般測量ソフトウェアの動作を設定できるようになりました。ファイルを選択画面を表示させる（別の線形を選択できるようになります）か、メインメニューに戻るようにソフトウェアを設定できます。このオプションの設定を行うには、ファイルを選択画面でオプションソフトキーをタップします。

## トータルステーション機器を調整する際の作業フローの改善

- 接続されたトータルステーション機器で機器の調節を行う際、複数種類の調節を行う必要があるのが普通です。機器調節が終わると、一般測定のメインメニューではなく、**機器 / 調整画面**に戻るようになりました。
- 電子気泡管画面に**校正ソフトキー**が追加され、これを使用して**機器調整画面**のコンパッセンサタのキャリブレーションルーチンに移動できるようになりました。

## Trimble SX10 スキャントータルステーションサポートの改善

Trimble Accessバージョン2017.00には、Trimble SX10 スキャントータルステーションの下記の改善点が含まれています：

- 測定性能の改善により、標準的な測定にかかる時間が約1秒短縮されました。
- **測量レポート**の改善により、SX10を使用して収集されたパノラマおよびスキャン情報が含まれるようになりました。

## 距離オフセット値がリセットするよう改善されました

距離オフセットを使用してトータルステーション測量で連続地形ポイントを測定する時、指定されたオフセット値が異なるジョブを開けたときに0にリセットされるようになりました。

## トータルステーション機器チルト補正ステータスが全てのジョブで記録されるようになりました

トータルステーション測量中、Trimble Accessソフトウェアは接続されている機器のチルト補正ステータスをジョブ毎に記録するようになりました。

今までは、あるジョブでチルト補正がオフに設定され、他のジョブでオンに設定されていると、最初のジョブに戻ったときにチルト補正がオンのままとなり、そのジョブに間違ったチルト補正ステータスが記録されてしまいました。

## 2周波エコーサウンダーのサポート改善

2周波エコーサウンダーを使用しているとき、エコーサウンダーから戻る第2の深さが**連続地形測量画面**に表示され、**ジョブのレビュー画面**にあるポイントの記録に正しい単位が表示されるようになりました。

エコーサウンダーを使用して深さを保存することに関する詳しい情報につきましては、[一般測量ヘルプ](#)にある **連続地形測量 - トータルステーション**または**連続地形測量 - GNSS**を参照してください。

## 受信機ファイルのダウンロード速度の改善

受信機ファイルのダウンロード時間が大幅に向上されました。一般的に、受信機からファイルをインポートするときの時間で：

- シリアルポート通信では3分の1速くなりました。
- Bluetooth通信では3分の2速くなりました。

## ドイツのモバイルデータプロバイダー：T-Mobile 対応

サービスプロバイダーのリストが更新され、M2M Portal 2 SIMカードが使用できる新しいAPNが含まれました。このプランは、「M2M-2」という名称です。今までの Portal 1

M2M SIMカードは、「M2M-1」という名称のプランでAPNを使用しています。

## 解決された問題

- 制御コード：閉じた図で水平オフセット制御コードを使用すると、メインラインは正しく閉じられたがオフセットラインが思ったように閉じられなかった問題が解決しました。
- 勾配値の計算：勾配をパーセントで計算するとき、高低差の値が1と2の間にあると、ソフトウェアが入力した「水平距離：高低差」または「高低差：水平距離」を誤って変換してしまう問題が解決されました。
- 地面面積から土量を計算する：測量計算 / 土量の算出を選択したときに、地形面積がすでに方法で選択されている場合に土量が計算されなかった問題が解決されました。
- Switching the SX10 from Wi-Fi to LRR mode: An issue when connected to a Trimble SX10 スキャンタラステーション using a third-party tablet running Trimble Access, where you were unable to switch the instrument from Wi-Fi mode to long range radio (LRR) mode using the *Instrument functions / Connections* screen in Trimble Access is now resolved. It was always possible to switch modes using the Power button on the instrument.
- 測定結果を保存する前に、DRへ、またはDRからターゲットタイプを変更する：ポイントを測定した後で、測定結果を保存する前に、DRに、またはDRから測定タイプを変更すると、測定結果が間違った測定タイプ情報とともに保存されてしまう問題が解決しました。測定結果を保存する前に、測定タイプをDRへ、またはDRから変更すると、再測定する必要があります。
- トータルステーション測量中の接近警告：保存前に表示チェックボックスが選択されていない場合に、コードを測定しているとき異なる名前の複製ポイントの接近警告が表示されなかった問題が解決されました。
- トータルステーション測量中の標準偏差警告：従来式測量の測定の際、「必要な標準偏差に達しませんでした、それでも距離を使用しますか?」というメッセージが表示され、いいえを選択すると、その距離が却下されずに使用されてしまう問題が解決しました。
- 補助GPS：補助GPSメニューが設定メニューに表示されなくなる問題が解決しました。この問題は、Trimble Accessバージョン2016.00から始まりました。
- ポイント - 残差画面の列ヘッダ：ポイント - 残差スクリーンに、 $\Delta HA$ 、 $\Delta VA$ および  $\Delta SD$ 各数値の列ヘッダが表示されない問題が解決しました。
- RTX - カスタムSV周波数の読み込み：接続されたGNSS受信機にある既存のカスタムRTX衛星周波数を受信機に保存し直すときに四捨五入されてしまう問題が解決されました。
- AccessVision画面：ポイントヘナビゲートを選択した後、ソフトウェアが時折誤ったAccessVision画面を表示してしまう問題が解決しました。
- 3Dマップ：3Dマップに見られた以下の問題が解消されました：
  - ジョブの単位がフィートに設定されていると、ズーム範囲が正しく表示されず、かつマップ上のテキストの高さが正しく表示されていませんでした。
  - 暗い背景画像を使用時、マップの右下の切り土/盛り土およびDTM情報が見えづらいうことがありました。



- ファイル内要素の座標範囲が大きすぎると、DXFファイル内の一部要素を表示できませんでした。DXFファイルの範囲から外れる要素は使用されなくなりました。
- DXFファイル内の一部ブロックは、3Dマップ内で正しく配置されていませんでした。
- 背景画像付きで北西に増加する座標系を使用しているとき、ステーション設置を実施した後、背景画像がマップで正しい位置に表示されない。
- 複数の背景画像を使用して北西に増加する座標系を使用するとき、マップで画像が正しい位置に表示されない。
- 2Dマップ：2Dマップに見られた以下の問題が解消されました：
  - 大き過ぎて表示できないジョブにTIFFファイルを追加しようとする時、ソフトウェアが、背景が大きすぎると警告する代わりに、関連付けられたワールドファイルが存在しないと警告することがありました。ソフトウェアは正しい警告を表示するようになりました。
  - 背景画像を使用している時に表面を作成した後、マップで表面の表示が遅くなったり、パンやズームの後描画が遅くなる。
  - ジオフェンスのある背景画像を使用して北西に増加する座標系を使用しているとき、背景画像が3Dマップでは正しく表示されたが2Dマップでは誤って表示されてしまった。
- 10インチタブレット使用時の問題：10インチタブレット使用時の以下の問題が解決されました：
  - キーボード表示
  - 動画の表示
  - ジョイスティック表示
  - eLevel表示
  - 測定およびステーション設定画面での大きすぎるテキスト
- ヘルプ内の方程式：一般測量ヘルプの第20章の方程式（一般測量ソフトウェアによる計算式）が正しく表示されない書式設定エラーが解決しました。
- アプリケーションエラー：次のいずれかを実行した際、時折見られた以下のアプリケーションエラーが解決されました：
  - ログイン画面で、ユーザ名のドロップダウンリストが表示されている間に、オペレーティングシステムのキーボードを使用し、新規ユーザ名を入力します。
  - エクスポートの際、他のアプリケーションにより、またはTrimble Access内で（例えばマップによって）使用されている既存シェープファイルの上書きを試みてください。
  - 計算機を使用している間、スタックの値をすべて表示オプションを繰り返し選択して、現在の値と同じ値を選択する。
  - チェック撮影が行われたポイントを削除した後、さらにチェック撮影をレビューしてください。
  - いずれかのボタンをタップし、AccessVisionグラフィック表示の表示および大きさを制御します。



- AccessVision画面を使用して従来式の測量を行う際、距離のオフセットまたはデュアルプリズムオフセットを行います。
- Measure a circular object using the center + tangent method and the calculated horizontal angle difference is too large.

## パイプライン

### 新しい特長と機能の強化

#### パイプライン検数と継ぎ手マップの更新ユーティリティ

その日の作業終了後、オフィスでTrimble Accessパイプライン検数および継ぎ手マップ更新ユーティリティを使用し、フィールド作業員から集められた更新済みの検数および継ぎ手マップデータをマスターファイルセットに統合することができます。それからマスター検数ファイルは各現場作業員に送られ、翌日の作業に使用されます。すべての統合されたデータを含むXMLファイルもカスタムレポートフォームを生成するのに使用することができます。

ユーティリティーは[www.trimble.com/Survey/Trimble-Access-IS.aspx](http://www.trimble.com/Survey/Trimble-Access-IS.aspx)から右側にあるダウンロードをクリックし、Trimble Accessパイプラインセクションまで進んでください。

このユーティリティーは時折更新されます。最新の更新情報およびユーティリティーの初回リリース以降すべての更新を確認するには、ユーティリティーダウンロードファイルのパイプライン検数と継ぎ手マップ更新ユーティリティーリリースノートの文書をご参照ください。

### 解決された問題

- 固有継ぎ手IDの確認：既存の継ぎ手IDが変更された際、継ぎ手IDが固有のものであるかどうかソフトウェアが確認しない場合がある問題が解決しました。
- 検数の作成画面の検索ソフトキー：固有のIDを持たない検数項目を探すのに検索ソフトキーを使用すると、既存の検数項目に固有IDが追加される代わりに、新規検数項目が作成される問題が解決しました。
- アプリケーションエラー：次のいずれかを実行した際、時折見られたアプリケーションエラーが解決されました：
  - パイプラインアプリケーション内のジョブ画面から開いた際、ジョブのレビュー画面で測定済みポイント属性のレビューを試みてください。この問題は、現在のジョブ用に選択された特徴ライブラリがポイントの測定に使用された特徴ライブラリに一致しない場合や、ポイントが測定された後に特徴ライブラリがなしに設定された場合のみ発生していました。
  - Attempt to swap the values entered in the joint behind ID and the joint ahead ID fields in a new joint map record, before the new record had been saved to the joint map file.

# 道路

## 新しい特長と機能の強化

### 定義または測量メニューを終了する際の動作の設定オプション

定義または測量メニューを終了する際の道路ソフトウェア動作を設定できるようになりました。ソフトウェアの設定では、ファイルを選択画面を表示させ、別の道路を選択できるようにするか、メインメニューに戻るかを選べます。このオプションを設定するには、ファイルを選択画面でオプションソフトキーをタップし、定義または測量メニューに進みます。

### 横断勾配の鉛直距離

ストリングを基準にして現在位置を測定したり、ストリング上のステーションを杭打ちしたりする際、鉛直距離横断勾配値がナビゲーション画面に表示されるようになりました。旧バージョンでは、この値は杭打ちしたデルタ確認画面でのみ利用でき、杭打ちをマークする前に位置を計測する必要がありました。

### 道路やストリングを基準に位置を計測する際のUI改善点

以下を基準に現在位置を計測する際：

- 道路。線形/ストリングから30m以内にいる場合、緑色の破線が現在位置から水平線形/マスターストリングまで引かれます。
- ストリング。ストリングから5m以内にいる場合、緑色の破線が現在位置から、選択したストリングまで引かれます。

この機能は、グラフィック式を選択方法を使用する場合にのみ利用できます。

### GENIO道路を定義する際のUIの改善

新しい道路を定義するとき：

- GENIO道路の既存のストリングから新しいストリングを定義する際、新しいストリングの元となるそのストリングの名前がグラフィック画面上部に表示されるようになりました。
- 測量を開始後であれば、現在位置を確認できるようになりました。

### 解決された問題

- ストリングを基準にした位置：ストリングを基準に現在位置を測定する際、現在位置が一時的に選択画面内の別の位置にジャンプしてしまう問題が解決しました。この問題は、定義済み工事オフセット画面を表示させた後でのみ発生していました。ナビゲーションを開始後は、ソフトウェアは正しい位置を使用していました。
- ナビゲーションの矢印がストリングの開始点を指さない：TrimbleまたはLandXML道路内のストリングを基準に、またはTrimble道路内の追加ストリングを基準に現在位置を測定する際、ナビゲーション矢印がストリングの開始点を指す代わりに、時折、常に北を指した状態になってしまう問題が解決しました。
- タブレット画面のちらつき：タブレットを使用し、計算済み工事オフセットを適用した状態でストリングを基準に測定する際、画面がちらつく問題が解決しました。

- グラフィック表示による追加ストリングの選択: 追加ストリングを選択する際、そのストリングの線形に対する角度が直角に近付くにつれて選択しづらくなる問題が解決しました。線形に対して直角のストリングは、グラフィック表示ではまったく選択できませんでしたが、タップ&ホールドメニューを使用すれば選択することが可能でした。
- 追加ストリング内の接線以外の要素: 追加ストリングを定義する際、要素が接線でない場合、線の要素よりも前のアイコンが赤で表示されない問題が解決しました。これは、道路が保存された後でのみ発生していた問題です。
- アプリケーションエラー: 次のいずれかを実行した際、時折見られたアプリケーションエラーが解決されました:
  - 杭打ちする計算済み路床位置を選択する。
  - TrimbleまたはLandXML道路内の側方勾配ストリングを基準に現在位置を測定する際、横断面ビューにアクセスしようとする。この問題は、従来方式の測量にて、グラフィックオプションを使用して測量方式を選択した際や、選択されたストリングに現在位置が近くない場合で横断面ビューにアクセスを試みる前にタップ&ホールドメニューにいったんアクセスしてから閉じた際にのみ発生していました。

## AccessSync

### 新機能および機能強化

#### コントローラとTrimble Connect間のファイル同期

AccessSyncを使用し、コントローラとTrimble Connectクラウドベース共同作業プラットフォームの間でファイルを同期できるようになりました。

適当なクラウドベースのプラットフォームとの同期を正常に行うには、Trimble Accessソフトウェアにログインする際、適当なログインモードを選択します:

- オフライン
- Trimble Connect
- TCC

Trimble Connected Communityを使用してのデータの保存や情報の共有に慣れている場合で、Trimble Connectへの移行を検討しているときは、両プラットフォーム間の主な違いを理解しておくことが有用です。これらの違いは以下の通りです:

- Trimble Connectには、系統立ての概念はありません。その代わりに、データはプロジェクトやフォルダごとにまとめられます。
- フォルダやプロジェクトは、Trimble Connectアカウントを持つ人ならば誰とでも共有でき、新規ユーザの招待も可能です。
- Trimble Connectのフォルダ構造はよりシンプルです。コントローラへのデータ転送の際、プロジェクト内へのフィールドへやシステムファイルといったフォルダの作成は不要です。
- フィールドで作業中の他のユーザとの、フィールドからのファイルの共有がより簡単です。Trimble Connectプロジェクトとデータを同期するだけで済みます。他の

フィールドユーザは、これらのファイルをオフィスで誰かが移動するのを待つことなく、各自のコントローラへのダウンロードが可能です。

- タブレット上でTrimble Connectにログインしている場合、最大ファイルアップロードのサイズを8 MBから256 MBに増やすことができます。

無料Trimble Connectアカウントの作成は、<http://connect.trimbleaccess.com>で行うことができます。

詳細に関しては、[Trimble Access Servicesヘルプ](#)を参照してください。


## ファイル転送速度の改善

ファイル転送速度は、旧バージョンと比較して約2倍です。

## 更新されたファイルのダウンロードは、コントローラ上で自動的に一時停止されます

AccessSyncの旧バージョンでは、ファイルが複数回、サーバ上で更新され、コントローラにダウンロードされた際、初期設定の動作により、コントローラ上にそのファイルの新しいバージョンが作成されていました。今回のリリースでは、AccessSyncは、複数バージョンを検出し、コントローラ上に余分なファイルが作成されないように自動的にダウンロードを一時停止します。フィールドユーザが更新を必要とする場合、ダウンロードを手動で再開できます。AccessSyncの旧バージョン同様、ファイルの最新バージョンにはファイル名に番号が追加され、それが新しいバージョンであることが分かるようにします。

## ファイルの不一致に関するルール

選択されたフォルダやサブフォルダに対するファイルの不一致に関するルール（例えば、ファイルのバージョン管理やコントローラ上の設定の上書きなどの定義）は、AccessSync内から設定可能になりました。これらの設定にアクセスするには、AccessSync内からステータスカラム内をクリックし、フォルダ内のファイル一覧を表示させてから、をタップします。この画面で定義された設定は、.fsoxmlファイルに保存されます。旧バージョンでは、.fsoxmlファイルは、テキストエディタで修正する必要がありました。

メモ - コントローラのファイルバージョン管理設定が伝播されるのを防ぐため、.fsoxmlファイルはコントローラからサーバへアップロードされなくなりました。

# インストール情報

このセクションには、Trimble Accessソフトウェアのバージョン 2017.00のインストールに関する情報を掲載しています。

## コントローラへのソフトウェアとライセンスのインストール

### オペレーティングシステムのインストール

新しいTrimble Tabletには、オペレーティングシステムはインストールされていません。タブレットを起動して、Windows®のオペレーティングシステムをインストールし、Windowsのアップデートを適用してください

他の全ての新しいコントローラには、オペレーティングシステムはすでにインストールされています。

今後も新しいオペレーティングシステムがリリースされますので、[www.trimble.com/Survey/Controllers.aspx](http://www.trimble.com/Survey/Controllers.aspx)を適宜ご確認ください。

**警告** - オペレーティングシステムを更新するとデバイスにあるすべてのデータが消去されます。インストールを行う前に、パソコンにデータをバックアップしてください。バックアップをとらないと、データを失う恐れがあります。

**メモ** - 他のバージョンにTrimble Accessをアップグレードすると、ジョブ（および測量スタイルなどその他のファイル）が変換されます。元のTrimble Accessデータファイルをコントローラからコピーしてから、オペレーティングシステムをアップグレードした場合は、新しいバージョンのTrimble Accessをインストールする前に、必ず元のTrimble Accessファイルをコントローラにコピーし直してください。このステップを行えば、元のTrimble Accessファイルが新しいバージョンのTrimble Access対応形式に変換されます。

### ソフトウェアとライセンスのインストール

コントローラをご使用になる前には必ず、Trimble Installation Managerを使用して、アプリケーションとライセンスをインストールしてください。もし今までに：

- Trimble Installation Managerインストールマネージャーをインストールしたことがない場合は、[www.trimble.com/installationmanager](http://www.trimble.com/installationmanager)からインストールのための情報をご参照ください。
- Trimble Installation Managerインストールマネージャーをインストールしたことがある場合は、自動的に更新しますので、再インストールの必要はありません。スタート / すべてのプログラム / Trimble Installation Managerを選択し、Trimble Installation Managerを起動します。

詳細に関しては、Trimble Installation Managerのヘルプをクリックします。

**メモ** - Trimble CUコントローラでは、Trimble Accessバージョン2013.00以降を、Trimble CU モデル3 (S/N 950xxxxx)のみにインストールすることができます。Trimble CUモデル1と2には、Trimble Accessの新しいバージョンを実行するのに十分なメモリがありません。

### 本バージョンの使用条件

Trimble Accessソフトウェアバージョン 2017.00をインストールして起動するには、1 3月 2017まで有効な保証契約が必要です。



Trimble Installation Managerを使用してバージョン 2017.00をアップグレードする際、新しいライセンスファイルがデバイスにダウンロードされます。

## オフィスソフトウェアの更新

バージョン2017.00に更新した場合は、オフィスソフトウェアも必ず更新してください。この更新は、Trimble Business CentreソフトウェアなどのTrimbleオフィスソフトウェアに一般測量ジョブをインポートする場合に必要です。

Trimble Installation Managerを使用してコントローラを更新する場合、Trimble Installation Managerがインストールされているコンピュータのオフィスソフトウェアも同時に更新されます。

コントローラの更新に使用されなかった他のコンピュータを更新するには、以下のいずれかを行います：

- Trimble Installation Managerをそれぞれのコンピュータにインストールし、Office Updatesを起動します。
- Trimble AccessソフトウェアのTrimble Update Office Softwareパッケージを [www.trimble.com/support\\_trl.aspx?Nav=Collection-84862](http://www.trimble.com/support_trl.aspx?Nav=Collection-84862)から起動します。
- Trimbleデータ転送ユーティリティを使用します：
  - バージョン1.51以降をインストールして下さい。データ転送ユーティリティは、[www.trimble.com/datatransfer.shtml](http://www.trimble.com/datatransfer.shtml)からインストールすることができます。
  - バージョン 1.51をお持ちの場合は、データ転送ユーティリティの新しいバージョンに更新する必要はありません。Trimble Update Office Softwareパッケージのどれかを[www.trimble.com/support\\_trl.aspx?Nav=Collection-84862](http://www.trimble.com/support_trl.aspx?Nav=Collection-84862)から起動することができます。
- 更新が必要なソフトウェアがTrimble Business Centerソフトウェアだけの場合は、オフィスソフトウェアの更新を行う際、Trimble Installation Managerを実行する必要はありません。必要なコンバータが、Trimble Access ソフトウェアを実行中のコントローラ上で利用できるようになりました。必要であれば、Trimble Business Centerソフトウェアにより、コントローラからコンピュータにコピーされます。

## Trimble Solution Improvement Program

Trimble Solution Improvement Programは、Trimbleプログラムの利用方法についてや、発生する可能性のある問題の幾つかについての情報を収集します。Trimbleは、この情報をもとに、最も頻繁に使用される製品や機能の向上に役立て、問題解決のお手伝いをし、お客様のニーズにお応えします。プログラムへの参加は、任意で強制ではありません。

ご参加いただける場合は、お使いのコンピュータにソフトウェアプログラムがインストールされます。ActiveSync®技術またはWindows Mobile® Device Centerを使用してこのコンピュータにコントローラを接続するたびに、Trimble Access ソフトウェアはログファイルを生成し、これが自動的にTrimbleサーバに送信されます。ファイルには、どのTrimble機器が使用されているか、特定の地理的地域ではどのソフトウェア機能が好まれているか、Trimble製品にどのくらい頻繁に問題（Trimbleが修正可能なもの）が発生しているかといったデータが含まれています。

Trimble Solution Improvement Programは、いつでもアンインストールできます。Trimble Solution Improvement Programの参加中止をご希望の場合は、コンピュータの「プログラムの追加と削除」からソフトウェアの削除を行なうことができます。

## ヘルプと資料に関して

は、Trimble Access ヘルプ「文脈対応」ヘルプです。「文脈対応」ヘルプにアクセスするには、画面上部の ? をタップして下さい。

ヘルプ項目のリストが表示されます。関連項目は反転表示されています。見たい項目を開くには、その項目名をタップします。

ヘルプのPDFファイルをダウンロードするには、<http://apps.trimbleaccess.com/help>へアクセスして下さい。アプリケーションごとに異なるPDFファイルがあります。

## ソフトウェアおよびハードウェア要件

Trimble Accessソフトウェアバージョン2017.00は、以下に挙げるソフトウェアおよびハードウェア製品との通信に最も適しています。以下のバージョンより新しければ通信可能です。

Trimble ソフトウェア	バージョン
----------------	-------

Trimble Business Center (32-bit)	2.99
----------------------------------	------

Trimble Business Center (64-bit)	3.81
----------------------------------	------

Trimble 受信機	バージョン
-------------	-------

Trimble R10	5.20
-------------	------

Trimble R8s	5.20
-------------	------

Trimble R2	5.20
------------	------

Trimble R8-4, R8-3	5.20
--------------------	------

Trimble R6-4, R6-3	5.20
--------------------	------

Trimble R4-3, R4-2	5.20
--------------------	------

Trimble R9s	5.20
-------------	------

Trimble NetR9 地理空間	5.20
--------------------	------

Trimble R7	5.01
------------	------

Trimble R5	5.00
------------	------

Trimble Geo7X	4.95
---------------	------

Trimble GeoXR	4.55
---------------	------

Trimble R8-2, R6-2, R4-1	4.64
--------------------------	------

5800, 5700 II	4.64
---------------	------

Spectra Precision SP60/80	3.30
---------------------------	------



Trimble 機器	バージョン
Trimble V10イメージング移動局	E1.1.70
Trimble SX10 スキャントータルステーション	S1.36.5
Trimble VX™ Spatial Station	R12.5.51
Trimble S5/S7/S9トータルステーション	H1.1.20
Trimble S8トータルステーション	R12.5.51
Trimble S6トータルステーション	R12.5.51
Trimble S3トータルステーション	M2.2.30
Trimble M3トータルステーション	V2.0.4.4
Spectra Precision FOCUS 30/35トータルステーション	R1.6.7

最新のソフトウェアとファームウェアのバージョンについては、下記もご参照ください。

<http://trl.trimble.com/dscgi/ds.py/Get/File-93082/Survey%20Software%20and%20Firmware.pdf>.

## コントローラのオペレーティングシステムサポート

Microsoft Windows Mobile Version 6.5 Professionalを搭載したTrimble TSC3コントローラは、Trimble Accessソフトウェア バージョン1.8.0～2011.10を実行できます。

Microsoft Windows Mobile Embedded Handheld 6.5を搭載したTrimble TSC3コントローラには、Trimble Accessバージョン2012.00以降が必要です。